神戸新聞 2018年10月02日 火曜日 面名 発言１ １４ 13ページ

社　説

2018.10.2

本庶氏に医学賞

がん治療に新時代開いた

今年のノーベル医学生理学賞は、体内で異物を攻撃する免疫反応にブレーキをかけるタンパク質を発見し、がん免疫療法に貢献した京都大特別教授の本庶佑（ほんじょたすく）氏ら日米の2人に決まった。日本人のノーベル賞受賞は26人目で、日本出身のカズオ・イシグロ氏を含めると27人目となる。医学生理学賞は5人目だ。この分野での日本の底力を改めて世界に示したといえる。心から祝福したい。

本庶氏は26年前、体内で異物を攻撃する免疫細胞でブレーキ役として働く物質「PD1」を発見した。その後、がん細胞はPD1と結びついて免疫細胞からの攻撃を止め、増殖していることが分かった。

これを逆手に取り、PD1とがん細胞の結合を阻むために開発された新薬が、世界中で使われている「オプジーボ」だ。人体が本来持っている免疫力を増強し、がん細胞を攻撃させる「がん免疫療法」に新たな時代を切り開いたといえる。

受賞会見では「これを機に基礎研究の発展につながれば」と述べた。画期的な発見は20年余りを経て新薬に結実した。基礎研究に打ち込んだ半生をかみしめているに違いない。

子どものころは野山を駆け回る「ガキ大将」だったそうだ。人に使われる仕事は好きではないといい、「多くの人の役に立つのでは」と京都大医学部に進んだ。いつまでも衰えない研究への情熱は、このころ培われたのだろう。

今も研究室に熱心に足を運ぶという。モットーとするのが六つの「C」だ。好奇心、勇気、挑戦などを指す英語の頭文字である。若手研究者は「金言」として励みにしてもらいたい。

「定説を覆すことで新たな世界が広がる」などと語ったこともある。受賞は挑戦の大切さを改めて教えてくれている。

本庶氏は兵庫・神戸とも縁が深い。ポートアイランド2期の医療産業都市には20年前の構想策定段階から関わっており、現在は神戸医療産業都市推進機構のトップを務める。

ポーアイ2期には３００を超す企業や研究所が集積し、世界的な成果も表れている。次のノーベル賞受賞者が現れるよう、後進育成にも尽力してほしい。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名　前【　　】

① 京都大特別教授の本庶佑氏ら日米の2名が今年のノーベル医学生理学賞を受賞することに決まりました。その受賞理由を左の社説から抜き出しましょう。

② 本庶氏が26年前に発見した「PD1」はどんな物質ですか。

③ 本庶氏がモットーとする六つの「C」を下に記しました。
空欄に入る日本語の意味を社説の中から選んで書きましょう。

Curiosity （　　） Confidence （確信）

Courage （　　） Concentration （集中）

Challenge （　　） Continuation （継続）

NIEワークシート ／中学校、高校 ／ 理科、保健、総合、朝NIE